

# 法王フランシスが、フェイク・ニュースを用いることを、 糞便を食うことに例える

——法王いわく、ジャーナリストは“糞便嗜好”に陥ることを避けよ

【訳者注】この昨12月7日のガーディアン記事は、最後のパラグラフを読めばわかるように、“ピザゲイト”事件はフェイクだという、主流新聞一般の立場を取っている。これは、その後の証言や展開を見ても、アウシュヴィッツの犯罪を否定するようなものである。それだけに、法王フランシスの“異常な言葉を使った”発言は、正直に紹介されているものと解釈してよかろう。

そこで法王の発言を見ると、彼もピザゲイトは、根拠のない、途方もないウソだと考えていることがわかる。しかしどうして、ことさらこんな“異常な”比喻を使ったのか？ 彼が本当に、ひどい噂にすぎないと思っているのなら、こんな激しい比喻を使う必要はない。

「根拠もない、ひどい中傷は自分をも傷つける、やめよ」と言えばよい。しかしそうは言わず、**coprophilia** という普通の人の知らない異常な内容の言葉を使った。これは彼が、このスキャンダルが本当のことだと初めから知っていて、それを暴く者を、そのスキャンダル内容以上の、恥ずべき行為に耽る者だと言いたかったのに違いない。**pedophilia** に対して **coprophilia** — どちらも、普通の人の知らない、恐るべく忌わしい内容の言葉である。学者らしい才知が裏目に出たというべきか。

*The Guardian* : Harriet Sherwood (Religious Correspondent)

December 7, 2016

<https://www.theguardian.com/world/2016/dec/07/pope-compares-fake-news-consumption-to-eating-faeces-coprophilia#img-1>

フランシス法王は、偽ニュースを広げることは、「おそらくメディアがなし得る最大の害悪だ」と言った。

法王フランシスは、公職にある人々の信用を失墜させるために、スキャンダルや中傷に励み、フェイク・ニュースを押し進めるメディア組織を、激しく非難した。ニセ情報を広めることは、「おそらくメディアがなし得る最大の害悪だ」と、法王はベルギーのカトリック週刊誌 *Tertio* に話した。「人々の名誉を汚すことは罪です。」

強烈な言葉を使って、フランシスは、ジャーナリストとメディアは“coprophilia”——排泄物に対する異常な興味——に陥ることを避けねばならないと言った。そのような話を読んだり見たりする人々は、coprophagics、糞便を食う人のような振舞いをしているのだ、と彼は付け加えた。

法王は、人に不快を与えるかもしれない言葉を用いることを詫びた。「私はいくつかのメディアは、きれいな心になり透明になって——無礼のつもりなしに言うのだが——coprophilia、すなわち、絶えずスキャンダルや、汚い話を扱うようなことを、やめなければならない——たとえそれが本当であっても」と言った。「それに人々は、病的な coprophilia への傾向をもっているものだから、非常に大きな害悪を与える可能性がある。」

彼は、政治的ライバルを中傷するのに、メディアを利用することの危険についても述べた。「伝達的手段はそれ自体の誘惑をもっていて、誹謗中傷によって、人々を悪く言い、傷つけることもあります。これは特に政治の世界でそうです」と彼は言った。

「それは名誉を汚す手段として使われることもあり、そのようにする権利は誰にもありません。それは罪であり、人を傷つけるものです。」

ニセ情報は、メディアのなし得る最大の可能的傷害行為である。それは「一方向にだけ見方を変えるもので、真理のもう一方を見えなくするものだ」と彼は言った。

水曜日のインタビューは、フランシスが、異常な言葉を使って同じことを指摘した最初の事例ではなかった。一年前に法王に選ばれたとき、彼はイタリアの新聞 *La Stampa* に対し、こう言った——「ジャーナリストは時に、coprophilia によって coprophagia (糞便嗜好者) をつくり出すことで、悪人となる危険がある。これは、すべての男女に泥を塗る罪、すなわちポジティブな側面よりも、ネガティブな面を強調する傾向です。」

法王の最新の、このニセ情報に対するコメントは、非常に分かれた見方の存在する出来事について、フェイク・ニュースのウェブサイトや物語がはびこっていることを問題にした、グローバルな議論を背景にしてなされた。

アメリカでは、一部の観察者は、フェイク・ニュースが大統領選挙を、ドナルド・トランプに有利に導いた可能性があると述べている。11月19日、フェイス・ブック重役の Mark Zuckerberg は、バラク・オバマが言ったように、ネット上のニセ情報は、民主党の諸組織への脅威だという考えに懐疑的だったが、一足飛びに公然と、フェイク・ニュースへの反対を表明した。

“ピザゲイト”陰謀論は、ある過激な態度をとったガンマンが、日曜日、ワシントン DC の人気のピザ・レストランで発砲する事件を招いたが、これは、そのオーナーが、ヒラリー・クリントンとつながった、存在しないペドフィリア集団の一員であると間違って非難するフェイク・ニュースによって、広く知られるようになった。